

なく、その形成とかかわった第四紀末期の環境変化やそれとのかかわりについても検討し、自然史の中での沖積低地という観点から、沖積低地の生い立ち、発達過程を解明する。

本書の構成は、I章からXII章までの12の章に分かれる。このうち、IからIII章では、沖積低地に関する概念規定と、研究小史、さらに研究方法について述べ、沖積低地に関する地形研究の流れをおさえる。第IV章から第XII章では、沖積低地の形成・発達を第四紀末期の環境変化とのかかわりのもとに検討する。このうち第IV章では、沖積低地の形成・発達に大きな影響を与えた第四紀末期の環境変化、とくに海面変化について詳しく検討し、第V章では、沖積低地の地形の特色について述べる。さらに、第VI章から第IX章において沖積低地を構成する沖積層の層序・層相と堆積過程について検討する。これらをふまえて、第X章で第四紀末期における沖積低地の地形の移り変わりを明らかにし、第XI章において沖積低地の地形発達と環境変化を概観する。最後の第XII章では先史時代における沖積低地の地形変化を環境変化とのかかわりのもとに検討する。

以上のような内容のもとに、本書が地形学のみならず、沖積低地・沖積層にかかわる多くの分野の方々に広く読まれることを期待する。また、これから沖積低地の地形・堆積物や古環境などについての研究にとり組もうとする方々に向けて、従来の研究の流れや研究手段・研究方法についても概説した。巻末の文献リストとともに、研究を進める上で、役立てていただければ幸いである。

内容的には著者の浅学非才のために不十分な点が多いとは思うが、本書を一つの情報源、あるいは事例としてとらえていただき、さらに新たな展開への足がかりとして利用してほしいと考えている。なお、本書の一部はすでに筆者が発表した論文にもとづいているが、基本的には本来の叙述を生かすこととして、加筆・修正は必要最小限にとどめたことをお許しいただきたい。

目次

はしがき	1
I. 沖積低地・沖積層とは	9
1. 沖積低地・沖積層	9
2. 諸外国における平野・低地の概念	12
3. 沖積低地とその地形	14
4. 第四紀の時代区分と沖積層	17
II. 沖積低地研究の歩み	21
1. 沖積低地研究の揺籃期	21
2. 1950年代から1960年代の基礎確立期	26
3. 沖積低地研究の発展期	31
4. 沖積低地研究の展開期	36
III. 沖積低地研究の方法と手段	46
1. 地形図の利用	46
2. 空中写真・衛星画像	49
3. 露頭観察とボーリング調査	53
4. 掘削調査	56
5. 堆積物の分析	59
6. 先史遺跡	68
7. 堆積物の年代	69

IV. 第四紀の自然環境と海面変化	73
1. 氷期と間氷期	73
2. 海面変化研究の問題点	79
3. 日本における完新世の海面変化	89
V. 沖積低地の地形と表層地質	96
1. 沖積低地の地形区分	96
2. 扇状地	97
3. 氾濫原	102
4. 三角州	108
5. 砂堤列平野	112
6. 溺れ谷低地	114
VI. 沖積層の層序と堆積環境の変遷	117
1. 沖積層の層序・層相	117
2. 日本における沖積低地の地質	119
VII. 木曾川デルタにおける沖積層の堆積シーケンス	132
1. 沖積層の堆積構造	132
2. 縄文海進にともなう内湾の拡大	133
3. 粒度分析結果	137
4. 沖積層の堆積過程	141
VIII. 沖積層上部砂層の形成とその地域的特色	144
1. 沖積層上部砂層に関する従来の研究	144
2. 日本における沖積層上部砂層の地域的特色	149
IX. 沖積低地における泥炭層の形成	156
1. はじめに	156
2. 沖積低地における泥炭層の形成条件	160
3. 泥炭層の形成時期について	163

X. 沖積低地の地形発達過程	168
1. 古地理の復原と時期区分	168
2. 最終氷期最盛期頃の沖積低地	171
3. 更新世最末期（晩氷期）の沖積低地	174
4. 完新世前半期の沖積低地	177
5. 完新世後半期の沖積低地	180
6. 日本における沖積低地の発達過程	186
7. 流域の条件と沖積低地の発達過程	188
8. 堆積域の条件と沖積低地の発達過程	194
XI. 沖積低地の環境変遷史	201
1. 最終氷期最盛期の自然環境	201
2. 晩氷期の自然環境	207
3. 後氷期の自然環境	211
XII. 濃尾平野における先史時代の地形環境の変化	220
1. 濃尾平野における縄文海進と内湾の拡大	220
2. 内湾の拡大と海成層の上限	223
3. 名古屋駅付近の沖積層と海面の微変動	227
4. 埋積浅谷の形成	231
5. 縄文後・晩期以降の小海退と環境変化	235
6. 地形環境の変化と遺跡の立地	239
あとがき	241
文献	244
事項索引・地名索引	268

埋没林 94, 217
 マングローブ湿地 45
 メアンダースクローラ 106
 網状流路 30, 97, 120, 207

ヤ・ラ行

弥生小海退 94, 170
 有孔虫 43, 64, 130
 有楽町層 24, 90, 211
 リットリナ海進 213
 粒度分析 137
 露頭観察 53

地名索引

ア行

秋田平野 37, 114
 石狩平野 100, 119, 120, 149, 156, 173
 石巻平野 38, 159
 伊豆半島 40, 92
 出雲平野 37, 149
 浮島ガ原低地 38
 大井川下流低地 119, 126, 172
 太田川下流低地 119, 126, 180
 大阪湾 79, 200, 203
 大淀川下流低地 37
 奥東京湾 36, 91
 オホーツク海 92

カ行

霞ヶ浦 42
 金沢平野 114
 河内平野 33, 68, 119, 169
 ガンジス川 106
 ガンジスデルタ 52, 104
 関東平野 24, 68, 117, 148, 183, 209
 九十九里浜平野 33, 96, 159, 188, 217
 釧路平野 119, 120, 149, 156, 173, 217
 黒部川下流低地 119, 129, 172

初出一覧

I, III, IV, V, XI 章は書き下ろし, II, VI 章は愛媛大学紀要 (1981 a), VII 章は堆積研報 (1992), VIII 章は名大文学部紀要 (1990 a), IX 章は植生史研究 (1990 b), X 章は地理評 (1981 b), XII 章は名大文学部紀要 (1988) に加筆した。

サ行

相模川下流低地 119, 124, 173
 サロベツ原野 114, 156
 庄内平野 39, 92, 114, 153, 159
 宍道湖 42
 駿河湾 39, 218
 スンダ陸棚 78
 仙台平野 38, 92, 119, 122, 149, 159, 173, 217

タ行

多摩川下流低地 37, 66, 120, 124, 173
 知多半島 38, 91
 銚子半島 40
 津軽平野 33, 92, 119, 122, 152, 173, 217, 233
 津軽海峡 203
 対馬海峡 85, 203
 鶴見川低地 115, 119
 天竜川下流低地 119, 126, 173
 東京下町低地 124
 富山湾 92, 204

ナ行

ナイル川 106
 中海 42
 新潟平野 40, 68, 114, 149, 159
 濃尾平野 37, 90, 127, 145, 158, 173, 210, 220
 浜名湖 42
 播磨灘 92
 広島平野 37, 65, 158
 豊前行橋平野 37
 福井平野 114, 119, 129, 173
 富士川下流低地 126, 172

マ行

ミシシッピ川 21, 109, 110
 宮崎平野 37

ヤ・ラ行

矢作川下流低地 119, 127, 173
 陸前高田平野 37

著者紹介

海津正倫 うみつ まさとも

1947年生まれ。早稲田大学教育学部卒。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。理学博士。現在、名古屋大学文学部助教授。

主な著書(分担執筆):『自然環境の生い立ち—第四紀と現在』(田淵洋編著, 朝倉書店),『地形分類の手法と展開』(大矢雅彦編, 古今書院),『防災と環境保全のための応用地理学』(大矢雅彦編, 古今書院)。

書名	沖積低地の古環境学
コード	ISBN4-7722-1838-6 C3044
発行日	1994年5月20日 初版第1刷発行
著者	海津正倫
	Copyright ©1994 UMITSU Masatomo
発行者	株式会社古今書院 橋本寿資
印刷所	カシヨ株式会社
製本所	渡辺製本株式会社
発行所	古今書院
	〒101 東京都千代田区神田駿河台2-10
電話	03-3291-2757
FAX	03-3233-0303
振替	東京0-35340番
	検印省略 Printed in Japan